



シルクロードと一帯一路 (21世紀のシルクロード)

9月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2022年9月21日(木)

21世紀のシルクロードは、中国の新しい対外開放戦略の一環である。2013年中国国家主席“習近平”が、アジア、ヨーロッパ、アフリカ大陸にまたがる経済圏構想、「シルクロード経済ベルト」と「21世紀海上シルクロード」を併せた「一帯一路」構想を打ち出したことにより始まった。

シルクロード「一帯一路」を通じての開放型の世界経済システムによって、**地域協力と文明の交流の実現**を図り、中国及び世界の発展構想として提案し、実現へのスタートが切られた。

2017年5月、北京での「一帯一路」国際協力サミットフォーラム(29カ国参加)が開催された。「一帯一路」におけるインフラ整備を資金面から支援するためのシルクロード基金、アジアインフラ投資銀行(AIIB)、新開発銀行(NDB)が中国の主導で設立されている。

一帯一路構想の対象地域は、アジア、ヨーロッパ、アフリカ大陸にまたがる経済圏である。

「一帯」シルクロード経済ベルトとは、中国から①中央アジア、ロシアを経て、ヨーロッパに至るもの、②西アジアを経て、ペルシア湾、地中海に至るもの、③インドシナ半島を経て、インド洋に至るものである。

「一路」21世紀海上シルクロードとは、中国の沿岸湾から①南シナ海を通り、マラッカ海峡、インド洋を経て、ヨーロッパに延伸するもの、②南シナ海を通り、南太平洋へ延伸するものである。

そしてその協力の枠組みは、「六廊、六路、多国、多港」の共同建設を通じて実現するとされる。

しかし、現実の中国は、国内的にも**地域の格差**を抱え、対外的にも**先進国との利害の衝突**、開発途上国への適切な経済協力の実現など克服すべきいくつもの課題を抱えている。

このような状況の中で、結果として、**中国の利益を図り乍ら、各国の利益を実現し**、「開放型の世界経済システムを守る」、「自主的で、均衡のとれた接続可能な発展を実現する」という目的を達成できるか否かという大きな課題がある。

参照：一帯一路(全球発展的中国邏輯) 馮兼著 (2015年 新華書店) 米中対立の先に待つもの 津上俊哉著 (2022年 日経BP)